



2026年 研究・開発 事業・製品

「ベンベルグ®」の紡糸技術を応用し、高機能セルロースマイクロファイバーを開発

花王のスキンケア製品「エスト ジェノリユクス クリーム」に機能性素材として採用が決定

旭化成株式会社 ニュース 2026 「ベンベルグ®」の紡糸技術を応用し、高機能セルロースマイクロファイバーを開発

2026年7月7日

旭化成株式会社

旭化成株式会社(本社:東京都千代田区、社長:工藤 幸四郎、以下「当社」)は、このたび、繊維事業で培った技術を活かした高機能セルロースマイクロファイバーを開発しました。本素材は、花王株式会社(以下「花王」)が2026年9月に発売を予定しているスキンケア製品「エスト ジェノリユクス クリーム」への機能性素材として採用されることが決定しました。

[製品ページ](#)





セルロースマイクロファイバー粉末

1. 開発の背景

当社は、90年以上にわたり再生セルロース繊維「ベンベルグ®」※1の製造を通じて培ってきた技術を基盤に、セルロースの新たな用途展開を進めてきました。一方、花王では極細繊維を活用したスキンケアの提案を行っており、より手軽に使用できるよう、化粧品製剤に配合可能な新たな繊維素材の検討を進めていました。こうしたニーズを受け、当社はセルロースの紡糸・加工技術をもとに、花王との評価・検討を通じて繊維長の最適化を行い、平均繊維径1 μ mの細く均一な繊維からなる高機能セルロースマイクロファイバーを開発しました。

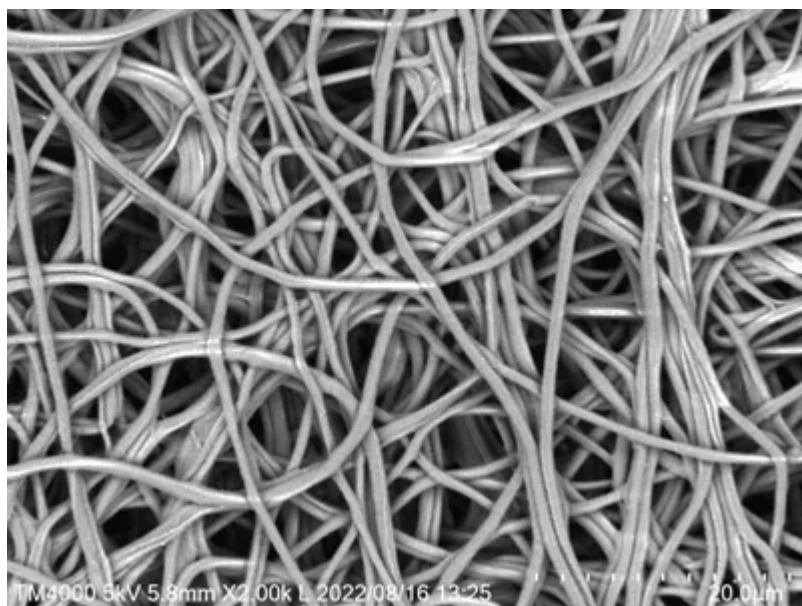


図1



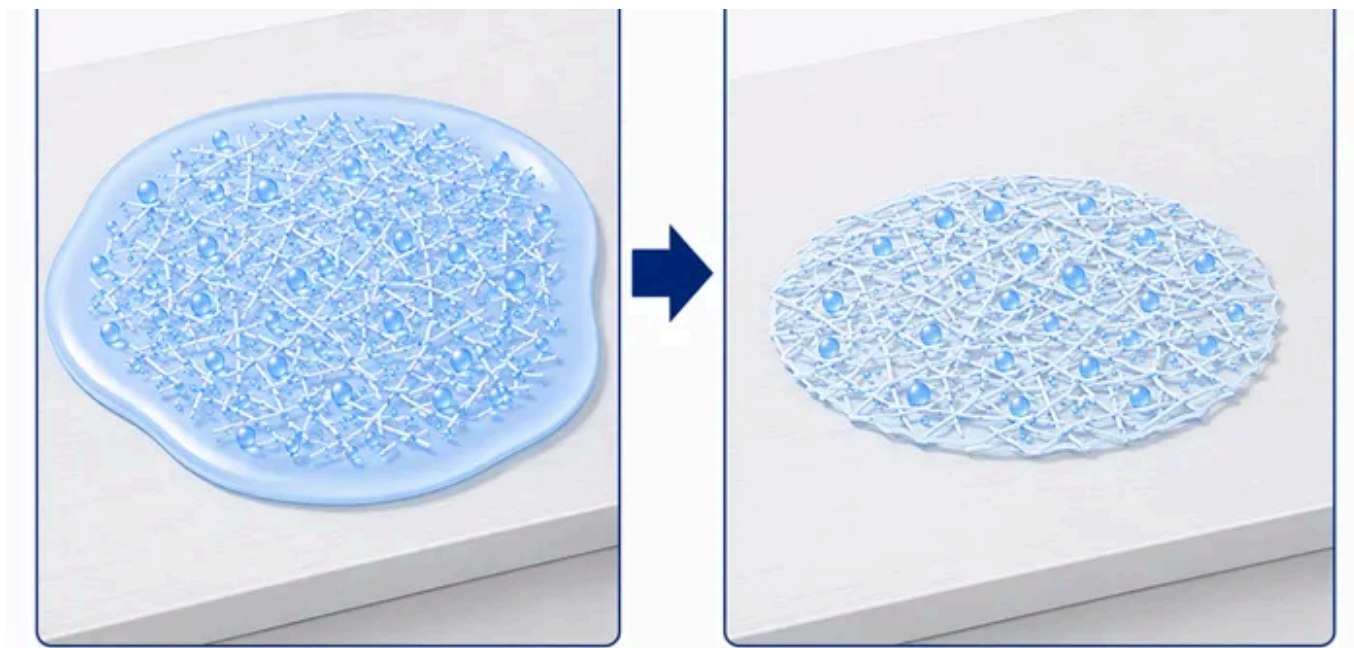
図2

当社のセルロースマイクロファイバー（図1）と一般的なセルロースマイクロファイバー（図2）の電子顕微鏡画像

2. 本素材の特長

① ネットワーク状の膜の形成

本素材を配合した液体を塗布すると、均一な繊維がネットワーク状の膜を形成します。化粧品分野では肌上での皮膜形成や、皮膜の隙間に配合成分を保持するといった効果が期待されます。



液体中に繊維が分散した状態

繊維がネットワーク状の膜を形成

※いずれもイメージ画像

②液体中での均一分散

本素材は分散性に優れ、水以外の液体にもなじみやすく、液体中に均一に分散させることが可能です。この特長により、化粧品やコーティング材料に加えた際に、配合成分の分離・凝集を抑制する効果が期待されます。

③迅速な海洋生分解性

近年、マイクロプラスチックの環境や生態系への負荷に対する懸念が世界的に高まっています。本素材は、マイクロプラスチックに該当しない素材として、さまざまな分野での活用が期待されます。また、一定の条件下で迅速な海洋生分解性を示すことを確認しています※2。

④原料は植物由来のコットンリントナー

本素材は「ベンベルグ[®]」と同様に、コットンリントナーを原料とした再生セルロース繊維です。セルロースは、化粧品、フェイスマスク、肌着など、肌に接触する用途でも使用されている素材です。さらに本素材は、界面活性剤や防腐剤などの添加物を含まない粉末として提供することが可能です。

このような特長が評価され、本素材は花王が2026年9月に発売を予定しているスキンケア製品「エスト ジェノリユクス クリーム」に採用されることが決定しました。

との“いのち”と“くらし”に貢献していけるものと期待しています。当社は今後も、セルロース素材の新たな可能性を追求し、多様な産業分野における価値創出を目指してまいります」

- ※1 再生セルロース繊維「ベンベルグ[®]」:当社の再生セルロース繊維キュプラのブランドであり、綿実油を作る時の副産物であるコットンリントー(綿の種子の産毛)を原料とした繊維。
- ※2 海水中での生分解性を評価する国際規格ASTM D6691の試験手法により、第三者機関にて評価。
[詳細はこちらをご覧ください。](#)

以上

[ニュース一覧へ](#)

企業情報

事業・製品

イノベーション

IR情報

サステナビリティ

ニュース

Creating for Tomorrow

イベント活動



[ご利用条件](#)

[サイトマップ](#)

[よくあるご質問](#)

[プライバシーポリシー](#)

[情報セキュリティポリシー](#)

[クッキーポリシー](#)

[ソーシャルメディアポリシー](#)

Asahi Kasei

Copyright © Asahi Kasei Corporation. All rights reserved